新　“ネギまと転生者”

大喰らいの牙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
新　“ネギまと転生者”

【Ｎコード】
Ｎ７２６４Ｙ

【作者名】
大喰らいの牙

【あらすじ】
これは、以前『ネギまと転生者』を新しくして、一からやり直したものです。
物語は原作開始の約１０００年程前から始まります。
アンチになるかどうかは書いていかないと分からないですが、原作ブレイクにはなります。

始まり（前書き）

これは以前上げた“ネギまと転生者”を一新にした作品です。

物語の始めは原作開始から約１０００年前からの始まり、つまり、魔法大戦前からのお話です。

主人公は変わらずの“蒼騎　真紅狼”ですが、生い立ちや能力を多少変更しております。

始まり

・・・

「で、殺した理由は分かった。その他に用があるんだろ？」
「うむ。神様の中にもルールがあってな。お主の場合特別だったんじゃが、基本神様って言うのは、人間界に触れないようにしてるんじゃ。だが、儂より下の下級神様……所謂、『見習い』がたまーに“うっかり”人を殺してしまう時があるのじゃ。そうなってしまった時に、その者達を転生させるんだが、何故かマンガの世界に転生させるのが流行っておってな、その世界に生きる為にチートになって転生させているのだ」

ふーん？　神様業界ってのも大変なんだな。
一つ気になっていたので聞いてみた。

「神（ジイサン）、アンタさっき“儂より下”って言ってたけど……位高いの？」
「儂はこれでも最高神じゃ。といっても、本当に人間界には触れておらんぞ？　お主のような例外以外とかはな。本来はそういう部署があるのでそちらに一任しておるのじゃ」
「色々あるもんだ。……ん？　ということは俺もマンガの世界に転生するってことか？」
「まぁ、そうじゃな」

転生か……　人生なにがあるか分からないものだな。

「一応聞くけど、行き先は？」
「今だと……『ネギま！』という世界らしい。まぁ、ファンタジ

ーじゃな」
「ファンタジーってことは“魔法”とか？」
「その解釈で間違ってないな。まぁ、餞別代りにそれなりの特典付けてやるぞ？　しかし、お主は何故か、その『ネギま！』の魔法が使えないらしい」
「何故に？」
「そういう体質らしいの……」
「そっかー、体質ならしかたがないよねーー」
「「ＨＡＨＡＨＡ！！（　　。∀　。）」」

「気にしろよ！！」とか言われそうだけど、無視しよう。
深く関わっちゃいけない気がする。

「んじゃあ、ＦＦ５と６（アドバンス）の魔法と青魔法、暗黒魔法が使えて、さらには召喚獣は６ので。あとはＫＯＦのオズワルドの“カーネフェル”だろ、鋼殻のレギオスの“鋼糸”の技と剄技を全部で“剄”の量はアルシェイラと同じぐらいで。あとは戦国ＢＡＳＡＲＡ２の“前田　慶次”、“長曾我部　元親”、“織田　信長”の最終武器で、ただし、慶次の武器だけ“第七武器”も付けてくれ。ん～、アレを使ってみたかったんだよね。Ｄ．Ｇｒａｙ－ｍａｎのクロス・マリアンの“断罪者（ジャッジメント）”を。最後に、メルブラの“蒼崎　青子”のマジックガンナーと“軋摩紅摩”の灼熱をでいいッス」
「随分とまた付けたな。まぁいいだろう。そうしておこう。そうじゃ、こちらの特典みたいなものなんじゃが……“直死の魔眼”と『七夜』の体術、そして不老不死が付いておる」
「なんでまた？」
「こうしないとお主の体が耐えられないらしい。お主の体の中の存在が原因らしい」

「ふ〜〜ん？　まぁ、貰えるモノは貰っておくよ。あとさ、ちょっとした改造をしてもらってもいい？」
「内容によるが、言ってみろ」
「いや、“蒼崎　青子”のマジックガンナーでＦＦの魔法も撃てるようにすることと“断罪者（ジャッジメント）”の弾丸もＦＦの魔法を込めた“魔法弾”を追加して欲しいのと、俺用の色に変えて、“断罪者（ジャッジメント）”から別の名に変えることなんだけど……」
「まぁ、いいだろう。そう手配しておくぞ。ああ、注意点だ」
「んーー？」
「不老不死じゃが、体に馴染むまでは一年ちょっとかかるから、その間気を付けることじゃ」
「分かった。んじゃ、世話になったな神（ジイサン）」
「飛ばされる時間軸は、約１０００年程前からじゃから、貰った能力の研鑽にでもあてるのじゃな」
「うぃ」

そう返事すると、次第に足元から薄くなっていった。
そうして、俺は意識を失った。

「さらばじゃ――――――――蒼騎　真紅狼よ」

始まり（後書き）

新しくなって、やり直しました！

以前“ネギまと転生者”を読んでくれていた皆さまがまた付き合って頂けたら嬉しい限りです！！

次回はキャラ設定です。

キャラ設定

キャラ設定

主人公　蒼騎　真紅狼　《あおき　しんくろう》

年　今現在　２０歳

身長　１７５ｃｍ　↓　１８０ｃｍ

体重　６１ｋｇ　↓　６５ｋｇ

誕生日　４月２９日

容姿は鋼殻のレギオスのリンテンスをイメージ。だが、無精髭は無いし、煙草も吸わない。ただ、眼の色は真紅。

裏設定

両親は二人とも他界している。１０歳の時に交通事故により死亡。その後、１０年間一人で切り盛りしながら、暮らしているが２０歳の時、神（ジイサン）に超法規的措置により殺されて、能力をもらい転生する。

能力
能力は基本的に“ネギまと転生者”と一緒ですが、ちょっとばかり能力の入れ替えをしました。

昔は――――

ＢＬＡＺＢＬＵＥ　ＣＳのハザマの能力、“碧の魔導書”を保有。
武器　二本のバタフライナイフ　ドライブは『ウロボロス』

ＫＯＦのオズワルドの戦闘術　“カーネフェル”を使える。
武器　トランプ

鋼殻のレギオスの天剣受授者の技全てを使える。（その他の剄技も使用可能）
武器　リンテンスの鋼糸と刀の天剣

戦国ＢＡＳＡＲＡ２の武将の武具と衣装に各武将の技が使える。
各武将によって、「吸収・半減・無効・弱点」できる属性がある。

ＦＦ５の暗黒魔法と６の魔法、青魔法＋召喚獣が使える。

『七夜』の体術と“直死の魔眼”が使える。

『紅』の“崩月流”と角あり。
そして、不老不死。

でしたが、“新　ネギまと転生者”ではこうです。

ＫＯＦのオズワルドの戦闘術　“カーネフェル”を使える。
武器　トランプ

鋼殻のレギオスの天剣受授者の技全てを使える。（その他の剄技も使用可能）
武器　リンテンスの鋼糸と刀の天剣

ＦＦ５の暗黒魔法と６の魔法、青魔法＋召喚獣が使える。

戦国ＢＡＳＡＲＡ２の武将の武具と衣装に各武将の技が使える。
各武将によって、「吸収・半減・無効・弱点」できる属性がある。

前田慶次
吸収　風　　半減　地　　無効　雷　　弱点　炎

長曾我部元親
吸収　炎　半減　雷　無効　水　弱点　地

織田信長
吸収　闇　半減　炎　無効　地　弱点　光

不老不死。
までは一緒です。

ここからが新しい部分です。

メルブラ
“蒼崎　青子”の通称『マジックガンナー』の能力が使える。
破壊特化

“軋間　紅摩”の灼熱
鬼の肉体

D．Ｇｒａｙ－ｍａｎ
クロス・マリアンの主武器である“断罪者（ジャッジメント）”
ちなみに“断罪者（ジャッジメント）”は真紅狼ｖｅｒに変えます。
以上です。

減ったのは、“ハザマ”の能力と、ＢＡＳＡＲＡ２の“伊達　政宗”と“真田　幸村”の武器と技、そして『紅』の“崩月流”です。

結構“魔術”よりにしてみました。

最後にアンケートなんですが……

“断罪者（ジャッジメント）”真紅狼ｖｅｒについて、なにか良い名前はありませんか？

あと、配色やどんなモデルなどもなんですが……

原作のクロスの“断罪者（ジャッジメント）”は銃身に十字架のデザインがありましたが、真紅狼はどのようなデザインがいいですか？

ご意見お待ちしております。

キャラ設定（後書き）

出来たら、今日中にもう一話上げたいです。

そして、アンケートの方よろしくお願いします！！

意外なお友達・・・

～真紅狼ｓｉｄｅ～

目が覚めたら、大森林の中に居た。

いや、冗談無くマジで。

取り敢えず、体が自由に動くかどうか確かめてみたら、ちゃんと動いた。……というより、以前よりも軽やかに動く。

不意にポケットの中に何か紙らしきものが入っていたので取り出してみるとこう書かれていた。

『真紅狼へ

お主が目を覚めた時にはこれを読んでいるだろう。お主が居る場所は“魔法世界”と呼ばれる場所で地球ではない。そこは本来の火星の表面に“上乗り”させた状態の“魔法世界”じゃ。地球に行きたかったら、その世界にある“ゲート”を使えば、行ける様になっておる……覚えといてくれ。最後にこれを消しといてくれ。

神より』

ここは火星なのか～～。

初めてだ、転生していきなり地球以外の星に降り立つなんて……

取り敢えず、メモは消去っと。

『ファイア』

ボッ！

指先から小さな炎が出て、メモを燃やした。

「さて、体が不老不死になるまで貰った能力の把握と力を馴染さねぇとな……」

そこから、俺は長い年月を掛けて、力を体に馴染ませた。

キングクリムゾン！！
軽く２０１年はすっ飛ばす！！

はい、真紅狼だ。
今、年は２２１歳だ。
最初の一年は大人しく隠れ住んでいたよ。
大森林の奥にそれなりの城が在ってな、そこを拠点にしてた。
周りは自然が創った石壁とかだったから、人はまず来れないし、猛獣が来ようとしても他の強者がうろついてるから、そちらも問題は無かった。
その後、体が不老不死になって、力も馴染んだ後、周りに居る猛獣共と殴り合いしてた。
いや、凄いんだよ。
人じゃないのに魔法障壁張っててさ。
魔獣パネェ……

で、殴り合った後何故か仲良くなった。
意志疎通がそれなりに出来るようになって、まぁ、楽しく過ごしていたよ。
今日はこの森に住んでいる猛獣（友人）たちを集めた。

「話があってな。ちょっと世界を見て回ってくるから、その間留守を頼みたいんだよ」

まぁ、コイツ等に言っても人語で返事が返ってくる筈ないのだが、そこは長年住んでいる者達のコミュニケーションで返事が返って来た。

「「「「「ゴォアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！」」」」」

どうやら、良い返事だったらしい。

「じゃあ、行ってくるから……後を頼むぜ？」

森を出ようと外に向かおうとしたら、一匹の若い竜が首を垂らして、「乗れ」と言っているみたいだったのでそいつに乗って森を出た。

「態々、見送り有難うな」
「……グルルゥ」

「おう。またな」

ブァア！

俺を乗せた若い竜は数少ないやり取りをしたあと、再び森の中に去っていった。

そこから、街のある方に歩き始めた。
情報を収集しながら、街の名前などを覚えたりした。
どうやら、俺が居た森は、エリジウム大陸の“ケルベラス大森林”と呼ばれる場所だったらしい。
その他にも、自由交易都市“グラニクス”や魔法学術都市“アリアドネー”、共和国“メガロメセンブリナ”それに対立する大帝国“ヘラス”、そして、この世界が出来た当時に創られた王国“オスティア”などがあるらしい。

そして今現在、俺はその“オスティア”に居るんだが、浮いてるんだ土地が。
浮遊国かよ、ここ。
とまぁ、歩いていたら何かダンジョンっぽいところに来てしまったんだが、何ココ？
取り敢えず、俺を後ろから見ている黒いフードを被ってる人に聞こう。

「なぁ、アンタ。ここがどこか分かるか？」

「！？」

そう問いかけると姿を現した。
……結構出来そうだなぁ。

「貴様、何者だ？」

～真紅狼ｓｉｄｅ　ｏｕｔ～

～？？？ｓｉｄｅ～
私はいつも、ここから望遠鏡を使って墓守りの宮殿を覗いていた時、人の気配がしたのでフードを被り、気配を消して近づくと妙な感じがした。
この世界の者でもなく、ましてや「人間」でも無い存在だった。
そこに不意に声を掛けられた――――

「なぁ、アンタ。ここがどこか分かるか？」
「！？」

気配はちゃんと消していた筈なのに、いつどこで分かったのか？
と自問自答していたが、答えることにした。

「貴様、何者だ？」

「あらら、俺は“場所”を聞いてるのに、そちらは“名前”を訪ねるのかい？」
「もう一度、聞く。貴様、何者だ？」
「人の名を聞きたいなら、自分から名乗れ。それが出来ないなら、俺はお前を無視するし、答える気も無い。邪魔したな……」

そういうと彼は去っていこうとしたので、私は必死に引きとめた。

「待って！　待ってください～～～！！　名乗りますから、行かないでください～～！！　私の話し相手になってください～～！！」

彼の腰にしがみつきながら、必死に引きとめた。
そうすると彼は突然のブレイクに驚きながらも、止まってくれた。
よかった～～。

「……えーっと、名前は？」
「えっと、レーネ・アルカディアと言います。“造物主（ライフメーカー）”とも呼ばれています。貴方のお名前はなんて言うんですか？」
「蒼騎　真紅狼だ」
「蒼騎　真紅狼さんですか……、“旧世界”の方ですか？」
「“旧世界”？」
「えっとですね。こちらの世界を“新世界”といい、“ゲート”の向こう側を“旧世界”と言うんです」
「じゃあ、一応旧世界出身だな」

何か含みのある言い方ですが、触らない方がいいですね。

「それでですね。初対面の方にこんなこというのもどうかと思うんですが、私と友人になってくれませんか！？」
「別にいいぞ？」
「いいんですか！？」
「うん、まあ。何か困ることでもあるのか？」
「いや、だって、皆、私の正体を言うと逃げたり、怯えたりするので……」
「俺はそんなの知らんし、関係無いね。う～～ん、呼び名は“レーネ”でいいか？　ちょっと安直過ぎるが……」
「じゃあ、私は“真紅狼”って呼びますね！」
「おう。よろしくな、レーネ」
「はい。よろしくです。真紅狼」
「で、レーネ、頼みがあるんだがいいか？」
「なんですか、真紅狼？」
「俺、“旧世界”に行きたいんだが、“ゲート”を開いてくれないか？」
「え？　う～～ん、まあ、良いですよ」

そういって、真紅狼をゲートまで案内してゲートを開いた。

「また、逢おう、レーネ」

そう言って、真紅狼は消えた。

「はい。また、いつか……」

～レーネside out～

とまぁ、ゲートで移動したんだが目覚めたら、多分日本（？）の土地の関東に居たんだよ。

意外なお友達・・・（後書き）

はい、いきなりキャラブレイクです。

造物主はフードを被ると威厳が出ますが、脱ぐと普通に少女です。
あと、レーネにはもう一人の人格者がいますが、それがライフメーカーです。
つまり、レーネの体を借りることで現界出来るわけです。
条件は『フードを被ること』です
そして、この当時はまだ、セクトゥム達は居ません。
創られておりません。

キャラブレイクに「ええ～～～～！！」という方も居るかもしれませんが、それが狙いだったり（笑）

話の進みが早いと感じてしまいますが、魔法大戦時に長ーくやりそうなので、パパッと進めます。

また、キャラの構成が出来ましたら、載せます。

お次は、あの人が登場。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7264y/

新　“ ネギまと転生者 ”

2011年11月22日01時11分発行